

書窓

Shoso

No.331

2012. 9

太子町立図書館 編集発行

〒671-1561

兵庫県揖保郡太子町鵜

1310 番地 7

Tel (079)277-1580

Fax(079)277-5684

出会い

本とわたし

313

丸山 尊大

「世に生を得るは事を成すにあり」

これは、司馬遼太郎の『竜馬がゆく』の中の竜馬の言葉。高校・大学浪人時代に自分の進むべき道に悩んでいた時にこの本と出会った。

私が歴史を好きになったのは、小学生の時。きっかけは、家で買ってもらった歴史漫画だった。戦国時代の武将シリーズが大好きで、何回も何回も読み直したのをよく覚えてい

る。中高生になると、日本や中国の歴史小説を読むようになった。その時代時代にタイムスリップし、夜遅くまで、布団の中で時を忘れ、読みふけた。単純な私は、冒頭の坂本竜馬や『三国志』の劉備玄德などのヒーローに憧れ、自分もこうありたいと思った。人は、どうあるべきかということ深く考えさせてくれた数々の人物に出会えた。

また、大学生の時、先輩に勧められて読んだ沢木耕太郎の「深夜特急」シリーズで作者が訪れる国々を自分も一緒に旅をした。自分を異国の不思議な世界に連れて行ってくれた。その土地の人々の様子・景色・においてもが私の心にどっぷり入り込み、実際に旅をしたくなった。私は、国内外問わず、貧乏旅行のバックパッカーになった。その旅先でも、すてきな人々との出会いや体験が待っていた。

今、私はむろん、世界を動かすような人物でもなく、世界中を歩き回る旅人でもない。一歳になる一人娘と図書館の周りを散歩し、絵本を借り、読み聞かせをすることをとても楽しみにしている平凡な父親である。ただ、この平凡な日常が最高の幸せであり、この日常があるのは、数々の本と人との出会いがあったからだと確信している。だから今日も娘をデートに誘い出す。すてきな本とすてきな司書の方がおられる図書館に。そして今夜も娘の笑顔を見たくて絵本のページをめくる。

(まるやま たかひろ 斑鳩)

新着図書紹介(ノン・フィクション)

2012. 9

書名	著者	出版社	請求記号
幕府のふみくら 内閣文庫のはなし	長澤 孝三	吉川弘文館	016.3
共感覚という神秘的な世界 <small>言葉に色を見る人、音楽に虹を見る人</small>	モリー・シーバーク	エクスマレッジ	141.2
文明と戦争 上・下	アザー・ガット	中央公論新社	209
道具と人類史	戸沢 充則	新泉社	210.2
アッバース大王 <small>現代イランの基礎を築いた可烈なるシャー</small>	デイヴィッド・ブロー	中央公論新社	226.3
イングランド王国と闘った男 <small>ジェラルド・オブ・ウェールズの時代</small>	桜井 俊彰	吉川弘文館	233.5
トマス・グラバーの生涯 <small>大英帝国の周縁にて</small>	マイケル・ガーデナ	岩波書店	Bグラ
旧ソ国交回復秘録 北方領土交渉の真実	松本 俊一	朝日新聞出版	319.1
ライフアーズ 罪に向きあう	坂上 香	みすず書房	326.5
カウンセラーが語るモラルハラスメント	谷本 恵美	晶文社	367.2
ルポ子どもの貧困連鎖 教育現場のSOSを追って	保坂渉 池谷孝司	光文社	369.4
名画の食卓を読み解く	大原 千晴	大修館書店	383.8
災害と妖怪 柳田国男と歩く日本の天変地異	畑中 章宏	亜紀書房	388.1
地震と噴火は必ず起こる 大変動列島に住むということ	巽 好幸	新潮社	453
ネアンデルタール人奇跡の再発見	小野 昭	朝日新聞出版	469.2
虫の卵ハンドブック	鈴木 知之	文一総合出版	486
最新脳科学で読み解く0歳からの子育て	サンドラ・アーモット	東洋経済新報社	491.3
ツボ&リンパマッサージ <small>カラダの不調を改善!</small>		主婦と生活社	492.7
「血管の病気」と言われたら…	重松 宏	保健同人社	493.2
「見た目」が気になる! 症候群	水島 広子	主婦と生活社	493.7
カーボン・アスリート <small>美しい義足に描く夢</small>	山中 俊治	白水社	494.7
プラスチックスープの海 <small>北太平洋巨大ごみベルトは警告する</small>	チャールズ・モア	NHK出版	519.4
もう一つの地球が見つかる日 <small>系外惑星探査の最前線</small>	レイ・ジャヤワルダナ	草思社	538.9
市民がつくった電力会社 <small>ドイツ・シェーナウの草の根エネルギー革命</small>	田口 理穂	大月書店	540.9
官邸の100時間 検証福島原発事故	木村 英昭	岩波書店	543.5
絶対解決Twitter&Facebookで困った!	富士ソフト	秀和システム	547.4
戦争と科学者 <small>世界史を変えた25人の発明と生涯</small>	トマス・J・クローウェル	原書房	559
明るい炭鉱	吉岡 宏高	創元社	567
1時間でできる! 簡単かわいい手作り小物218		主婦と生活社	594
編みやすくて心地いいニットのふだん着	michiyo	文化出版局	594.3
水切りヨーグルトレシピ <small>簡単! おいしい! きれいになる!</small>	牧野 直子	講談社	596
健康なからだをつくる 豆乳の魔法レシピ	浜内 千波	誠文堂新光社	596
切るナビ! 庭木の剪定がわかる本	上条 祐一郎	NHK出版	627.1
うなぎ 謎の生物	太田 博巳ほか	築地書館	666.6
牛車	櫻井 芳昭	法政大学出版局	682.1
阪急電車 <small>その全貌から個性とブランドを探る</small>	山口 益生	JTBパブリッシング	686.2
お化け屋敷になぜ人は並ぶのか	五味 弘文	角川書店	689.4
ベン・シャーン <small>クロスメディア・アーティスト</small>	ベン・シャーン	美術出版社	723.5
舞台の神に愛される男たち	関 容子	講談社	772.1
子どもの運動神経をグングン伸ばすスポーツの教科書 <small>学校では教えてくれない</small>		KKベストセラーズ	780.7
3日で打てる囲碁のワザ入門 <small>攻め方・勝ち方が簡単に身につく</small>	横内 猛	誠文堂新光社	795
ケータイ化する日本語 <small>モバイル時代の“感じる”“伝える”“考える”</small>	佐藤 健二	大修館書店	810.4

新着図書紹介(文学)

2012. 9

書名	著者	出版社	請求記号
ソロモンの偽証 1 事件	宮部 みゆき	新潮社	ミヤ
赤猫異聞	浅田 次郎	新潮社	アサ
虚像の道化師 ガリレオ7	東野 圭吾	文藝春秋	ヒガ
その暁のぬるさ	鹿島田 真希	集英社	カシ
さくら聖・咲く 佐倉聖の事件簿2	畠中 恵	実業之日本社	ハタ
カラマーゾフの妹	高野 史緒	講談社	タカ
幸せの条件	誉田 哲也	中央公論新社	ホン
ひらいて	綿矢 りさ	新潮社	ワタ
この世のメドレー	町田 康	毎日新聞社	
ふくわらい	西 加奈子	朝日新聞出版	ニシ
百年法 上・下	山田 宗樹	角川書店	ヤマ
もらい泣き	冲方 丁	集英社	ウブ
頼むから、ほっといてくれ	桂 望実	幻冬舎	カツ
謎の謎その他の謎	山口 雅也	早川書房	ヤマ
屍者の帝国	円城塔 伊藤計劃	河出書房新社	エン
私のいない高校	青木 淳悟	講談社	アオ
クエーサーと13番目の柱	阿部 和重	講談社	アベ
空中トライアングル	草野 たき	講談社	クサ
幸福な日々があります	朝倉 かすみ	集英社	アサ
かっこうの親もずの子ども	椰月 美智子	実業之日本社	ヤズ
まだ恋ははじまらない	蘇部 健一	PHP研究所	ソブ
チマチマ記(講談社)/あこのころのデパート(新潮社)	長野 まゆみ		ナガ
悲惨すぎる家なき子の死	中原 昌也	河出書房新社	ナカ
調印の階段	植松 三十里	PHP研究所	ウエ
レオン氏郷	安部 龍太郎	PHP研究所	アベ
明日のことは知らず 髪結い伊三次捕物余話	宇江佐 真理	文藝春秋	ウエ
春はそこまで 風待ち小路の人々	志川 節子	文藝春秋	シガ
青葉耀く 敬恩館風雲録 上・下	米村 圭伍	幻冬舎	ヨネ
ビーライフ! 白亜館物語	濱野 成秋	中央公論新社	ハマ
微笑む人	貫井 徳郎	実業之日本社	ヌク
天命の扉	遠藤 武文	角川書店	エン
解	堂場 瞬一	集英社	ドウ
黒い魍 <small>みずは</small>	岡崎 大五	祥伝社	オカ
レアケース	大門 剛明	PHP研究所	ダイ
塔の下	五條 瑛	光文社	ゴジ
視線	永嶋 恵美	光文社	ナガ
脱獄者は白い夢を見る	壇上 志保	新潮社	ダン
回廊封鎖	佐々木 譲	集英社	ササ
復活 ポロネーズ第五十六番	古野 まほろ	新潮社	フル
ガス燈酒場によろしく	椎名 誠	文藝春秋	シイ
カオス・シチリア物語 ピランデッロ短編集	ルイジ・ピランデッロ	白水社	Fピラ
ワールズ・エンド	マーク・チャドボーン	国書刊行会	Fチャ

カルアシ・チミーのおはなし

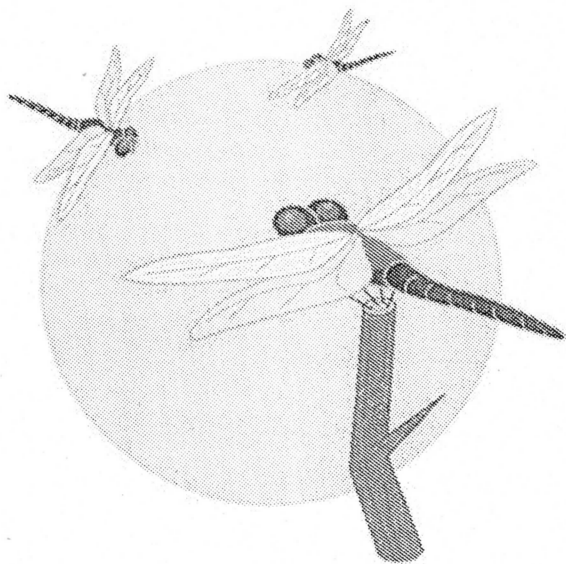
ピアトリクス・ポターさく・え

いしいもこやく (福音館書店)

秋になり、ハイイロリスのカルアシ・チミーと奥さんのカルアシ・カアチャンは、クルミを拾い、木のうろやキツツキのあけだ小さな穴にためこみました。けれども、クルミを地面にうめるリスたちは、しよっちゆう、うめた場所を忘れ、クルミをなくしてしまいます。ある時チミーとカアチャンが森にいると、そばで渡り鳥が「おれのクルミ ほったやつあ だれだ？」と繰り返して歌いました。それを聞いたリスたちは、チミーがクルミをとった思い込み、追いかけて、キツツキの穴におしこみました。穴の中でクルミの山の上に倒れていたチミーを助けたのは、小さなシマリスでした。カアチャンが迎えに来たとき、チミーはクルミを食べてすっかり太り、シマリスと歌を歌っていました。

柔らかな色調で秋の森を丁寧に描いた小型の絵本。乱暴なリスたちにハラハラさせられますが、チミーとシマリスの会話は、ユーモラスで穏やかな気持ちになります。読んでもらえば四歳くらいから。「ピーターラビットの絵本18」。

(片木)



子どもの本だな 147

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

ジャングル・ブック (上・下)

— オオカミ少年モーグリ —

ラディヤード・キプリング作

中野好夫訳

(岩波書店)

ジャングルに取り残され、トラに追われていた人間の子どもがオオカミに拾われました。モーグリと名づけられたその子は、クマのバルー、黒ヒヨウのバギーラに律法(おきて)を教わり、オオカミの群の中で育ちました。

ある日、モーグリはバルーの厳しい授業から逃げ出し、律法知らずの灰色サルたちに近づきました。サルにコブラが棲む廃墟に閉じ込められますが、バルーから教わったヘビの合言葉を唱えました。「お前たちとおれと、おれたちは一つ血の生まれだ」。一方、バルーとバギーラは、サルが唯一恐れているウワバミのカーを誘い出し、廃墟に駆けつけました。カーは空き腹踊りでサルたちの自由を奪い、次々にのみ込みました。バギーラの背で眠ってしまったモーグリは、そつとわが家へ運ばれました。

オオカミの子として育ったモーグリは、知恵と力をも身につけ、恐ろしい赤犬の群からジャングルを守ります。ジャングルの王となっていくモーグリの暮らしが楽しめます。十一歳くらいから。

(小西)

◆講演会のお知らせ◆

作家 中川李枝子さん

「本に会う、人に会う—私の出会った本と人—」

聞き手 小寺 啓章氏

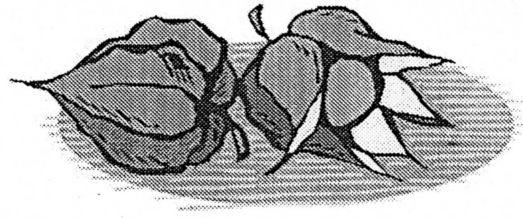
日時 9月30日(日) 13:30~15:30

会場 太子町立文化会館(あすかホール)大ホール

聴講無料・申込は不要です。大人を対象にした講演会です。お子さんは会場内に入れませんので、託児の必要な方はご相談ください。

講師紹介

1935年札幌生まれ。東京都立保母学院卒業後、保母として働くかたわら創作を続け、『いやいやえん』(福音館書店)で厚生大臣賞ほかを受賞。主な著書に、絵本『ぐりとぐら』『そらいろのたね』『とらたとまるた』、童話『ももいろのきりん』『たんたのたんけん』など。他に『本・子ども・絵本』『絵本と私』など多数の著作があります。



9月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	9月24日~28日は特別整理のため休館					

9月・10月の移動図書館(いずれも木曜日です)

9月	10月	10:30 ~11:00	11:10 ~11:40	14:30 ~15:00	15:10 ~15:40	16:00 ~16:30
6日	11日	塚森 公民館		福地 三反長 地域内	米田 公会堂	竹広南 公民館
13日	18日	岩見構下 公民館	岩見構上 公会堂	原池団地 公民館	山田 掲示板 前	原 太田東地 区農村交 流センター
20日	25日	広坂 ポスト前	上太田 公民館	沖代 地域内	吉福 公民館	太子ニュー ータウン 公民館

10月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

×印は休館、□印は午後1時まで開館。
開館は10時からです。
金曜日は午後8時まで開館しています。

地 下 水

去年まで、ツクツクボウシの鳴き声は、「夏休みが終わる」というせつない気持ちを起こさせた。
この夏、幼稚園が夏休みになった四歳の姪が、毎日のように我が家に通ってきた。遊び相手になる子どももおらず、自然、その役割が大人に回って行く。追っかけっこ、ごっこ遊び、工作と休む間もない。本を読もうと誘っても見向きもせず、こちらが疲れ果てうとうとし始めると「おはなしして。」とすり寄ってくる。幼い頃、私たち姉妹と従兄弟の四人が祖母の家で何泊かすると、「もう帰れ。」と叫びだした叔父の気持ちがよくわかった。
今年、今年、ツクツクボウシの声に、「や」と鳴いた。」とほっとした。ツクツクボウシが呼び起こすあの感覚が消えてしまったのに、残念でもなく、おかしさだけがすがすがしい喜びを感じる。
祖母の家でひたすら遊んで過ごせた時間の記憶は、大人になると宝物だ。にぎやかな図書館で、この子たちも今しか得られないものを存分に吸収しているのだから、ふと思う。川遊びや早朝のカブトムシ探しなど、夏の記憶を取り出して心地よくなる、ランサム作品あたりを読みたくなる。

(竹内)